

金欲の深坑

Dungeon 誌#157 掲載“Depths of Avarice”

<http://www.wizards.com/DnD/Article.aspx?x=dnd/duad/20080827>

参考： <http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20080827>

作者：Tim Hitchcock／適正レベル：13／適正キャラクター数：指定なし／公開日：2008,08,27／頁数：26)

高名な貴族の厄介者の息子であるヴァルムーア・テッソントはその享樂的なふるまいでしばしば家名を汚し、とうとう父の遺言書から名前を消されてしまった。このようなことをわざわざ公にするのは珍しいことではあったが、老テッソントは自分の遺産はそっくりヴァルムーアの弟のサノペッドに譲るつもりであると公表したのである。その返礼にヴァルムーアは一族の宝物庫から大量の宝石を盗み出すと、とある冒険者集団の指揮官となり、享樂的で因果な冒険に満ちた人生へと踏み出したのである。いまや放蕩息子は自分の財産を回復する好機を手に入れた。が、彼と、そして彼が生来の権利として要求する富との間には、恐るべき呪いが立ちはだかっているのだ。

『金欲の深坑』は、13レベルPCのためのアドベンチャーである。

冒険の背景

ヴァルムーアの父親は最近亡くなり、このすっかり疎遠になっていた指揮官殿も死者に敬意を払うために一族の屋敷に戻ってきた。が、そうして知れたのは、老テッソントがこの不肖の息子に遺したのはほんのわずかな地所——今では“テッソントの愚行”の名で知られる失敗した銅山があるばかりの場所であるということだった。

ある夜更け、地所の証書を調べているとき、書類の一枚が古くなって剥がれてきていることにヴァルムーアは気付いた。彼はよれよれの羊皮紙の間に、鉱山の地下の秘密の場所の地図を発見した——古代の預言者の眠る場所、その墓所には純金の像があるという。

ヴァルムーアの父親はその強欲さで半ば伝説になっていたが、嘆かわしいことに、その息子も父親の気質をすっかり受け継いでいたのだ。発見に有頂天になったヴァルムーアは、彼を見に来た雇い人も巻き込んで一晩祝杯を挙げると、近隣の村々の男衆半分ばかりを引き連れて丘陵地帯へと向かった。

ヴァルムーアとその付け焼刃の鉱夫たちは適当な場所にキャンプを張り、長らく使われていなかった鉱山を再開させる作業に取り掛かった。数週間の間、仕事は順調に進んだ。しかし、最初に祝杯をあげたときに、ヴァルムーアは彼が見つけた秘密の墓所についてあまりにも多くの手がかりを口走ってしまったのだ。噂はやがて、死霊術師にして錬金術師であるところのエイボン・ディンゴールという男の耳に入った。彼はヴェクナの秘密教団の指導者でもあったのだ。この教団が行う暗い儀式の数々は、常に力あるレリックすなわち聖遺物を要求した——そしてそのようなレリックは、ヴァルムーアが口走ったような墓所から見つけることが多いのだ。次の朝、エイボンと数名の教団員たちは、ヴァルムーアに鉱夫として雇われることに成功した。

その次の週、ヴァルムーアは8名の人員を、鉱山のより深い、より孤立した縦穴を調べに降ろした。夜になってもエイボンの配下たちは帰ってこなかった。いなくなった連中を助け出すために、ヴァルムーアの配下で経験豊かな頭領であるスカールトン・ガイアグに率

いられた救助隊が送り込まれた。しかしこの救助隊もいなくなってしまう、後から調べてもどちらの痕跡も見つからないのだった。

ヴァルムーアの鉱夫たちは慎重になりはじめている。見捨てられた鉱山の中に潜む暗い恐怖に怯えた彼らの多くは、賃金を受け取るや否や逃げていってしまった。あつという間に資金がつきかけ、どうしても隠された財宝を発見せねばならないとなったヴァルムーアは、冒険者を雇おうとしている。そうしていなくなった鉱夫たちがどうなったか調べさせ、鉱山の中に潜む見えざる脅威を取り除かせようというのだ。

冒険の概略

PCたちが鉱山に到着すると、ヴァルムーアは恐ろしい現状について説明し、いなくなった鉱夫たちを探すのを手伝って欲しいと頼む。鉱夫たちは洞窟の奥で捕まっているかステージに殺されたに違いないと彼は明言するが、この指揮官上がりの探鉱者は、自分の抱えているもっとも暗い疑念については口をつぐんでいる——すなわち、自分の配下の頭領、スカールトン・ガイアグは黄金の像の場所を見つけ出し、今もそこにいて、それを隠し、盗み出そうとしているのではないか、と。

ヴァルムーアは戦闘の素人ではさらさらないが、消息を絶った鉱夫たちも救助隊も既にガイアグの指揮下にあるのではないかと恐れている。内心ヴァルムーアは、PCたちが裏切者ガイアグを見つけ出し対決しこれを倒して、自分が黄金を手に入れられるようにしてくれないものかと願っている。しかし、鉱夫たちの失踪の後ろには、はるかに複雑な真実が隠れている。

PCたちが鉱山に入り、鉱夫たちにいなくなった連中を最後に見たのは誰だと尋ねようとすると、謎めいた爆発が起きて洞窟中が震撼する。閉じ込められた鉱夫を助け出した後、PCたちはエイボンの手下の1人がどうやら鉱夫たちの失踪の裏で糸を引いていたらしいということを探り当てる。しかし、その人物のいる採掘場にPCたちが到着したときには、彼は既に死んでいる。そうしてPCたちは彼を殺したクリーチャーどもと対峙せねばならない——それはガイアグに率いられていた鉱夫たちだが、その姿は恐るべき変形を遂げている。

その後、PCたちは、まだ知られていない、さらに深い部分へと続く道を示す地図を発見する。そこで彼らは、怯えきった鉱夫たちを見つける。鉱夫たちは、仲間たちを怪物の姿に変えてしまった古代の魔法についての恐ろしい話をしてくれる。

亀裂を下っていくと、PCたちはかつてガイアグだったアンデッドに出くわす。その後、恐るべき骸骨どもに守られた古代の納骨堂を発見する。納骨堂の中央に立っているのは、名高い黄金の像である。しかしその像の下にある墓に施されていた古代の封印は破られており、墓を冒涇した者に恐るべき呪いが襲い掛かったのである。

墓の中を調べると、預言者の頭蓋骨が持ち去られていること、そしてこの恐るべき呪いを解くには、その呪いが鉱山の中にいる全ての生きているクリーチャーを殺しつくす前に、墓を復元し、再封印するしかないということがわかる。PCたちは現在地上への道を探している盗賊（これはエイボンとその教団員どもである）を追わねばならない。一方で、この墓の古代の守護者たちも動き出しつつあるのだ。

それと同時に、待ちきれなくなったヴァルムーアもついに黄金の像を求めて鉱山の中に入り込む。冒険のクライマックスで、預言者の呪いはヴァルムーアを復讐の使徒の姿に変えてしまう——秘密を守るために、墓の中にいる全てのものを殺そうというのだ。

冒険の導入

本シナリオでは、PCたちは鉱山にほど近い街におり、直前までの冒険から戻ってきて休息していると想定している。そうして代理人を通じ、鉱夫失踪の謎を解いてくれるようにというヴァルムーアの依頼を請けるのである。

もしPCたちが直接ヴァルムーアに雇われることを君が好まない場合、以下のフックを使ってパーティーを冒険に引き込むことができる。

信仰の使徒として：PCたちはヴェクナの秘密教団の痕跡を追う、教会かその他同様の組織と繋がりがある。PCたちは数名の教団員がちょっとした採掘に関わっていることを知ったが、何故、そして何人ほどがそれに関わっているのかまではわからない。PCたちはいなくなった鉱夫たちを探す手伝いをしようと言ってヴァルムーアに接近するが、彼らの第一の目的は教団員たちが何をしようとしているか明らかにすることである。

兄弟間の争い：ヴァルムーアの弟で洒落者のサノペッドは父親の膨大な財産を受け継いだが、自分にはどうにも無価値な遺産にしか思えない場所にどうして兄が急に興味を示しだしたのか気になって仕方がない。ヴァルムーアの鉱夫たちの失踪の話を聞くと、彼はPCたちを雇い、こっそりと調査をさせ、ろくに働こうともしない怠け者の兄の秘密を明かそうとする。

脱走者たち：PCたちはヴァルムーアの事業から恐怖のあまり逃げてきた鉱夫たちの一団と遭遇する。もし君が街中でこの導入を運用する場合、鉱夫たちは安宿に泊まりこみ、恐ろしい記憶を酒で紛らそうと泥酔しつつ、“テッソントの愚行”の恐怖について聞きたいというものには誰でも話をする（すべては彼らの妄想だが）。

もしPCたちが路上で鉱夫たちに会ったなら、彼らはただPC一行に“この先に行くな、戻れ”と警告するだけである。もしもっと多くの情報を求められたなら、彼らは食料と引き換えに話をし、そうしてどこかもっと安全な働き口を探して去っていく。仲間の一団が二回も失踪したということ以外には、彼らの話す情報はよくても憶測程度のものである。

クエスト

『金欲の深坑』は、主要クエストおよび副次クエストによってPCたちがXPを手に入れる機会を提供する。

主要クエスト——墓所の復元

PCたちは尊き預言者の頭蓋骨（原文P.77）を回収し、それを納骨堂に戻し、その後に墓所を再び封印しなければならない。

報酬：3,000XPおよびヴァルムーアが約束した金銭。

副次クエスト——鉱夫たちの運命

失踪した鉱夫たちの運命（良いか悪いか）が知れるのを、地上の仲間たちは待ちわびている。もしPCたちがダイジェラス（エリア10、原文P.63）を無事に地上に戻して何が起きたか話せるようにしてやるなら、彼らは副次クエストの報酬を得る。

報酬：700XP。

冒険の結末（原文 P.68）

PCたちはヴァルムーアとその配下を倒してしまうと、尊き預言者の頭蓋骨を始めとする亡骸を石棺に納め、その部屋を再び封印することができる。そうすると呪いは消え去り、

ねじくれた者たちも生き残っていれば元の姿に戻る。もしヴァルムーアがこの試練を生き延びて正常な姿に戻ったなら、彼はこの鉱山を閉じて封印するようにと命じる。いずれの場合においても、生き残った鉱夫たちは“テッソントの愚行”を後にして帰宅する。